

坂元小だより

鹿児島市立坂元小学校
学校だより
令和6年 7月号
発行責任者：中村宗義



～やってみよう 頑張ってみよう みんなが笑顔の坂元小～

宿題を科学する

校長 中村 宗義

昨日の学級PTAでは、夏休みの課題について、内容や量、課題提出の方法、見届けの方法など、保護者の皆様の意見を聞くことができました。

さて、多くの先生方は、宿題（課題）を必要だと考えています。私もその一人です。ただし、学びの探求心・自己学習力を育てていくためには、これまでの作業的な宿題（分かっている・できる課題）を繰り返させられることには、疑問を感じています。

従来の「日本型学校教育」においては、経済発展を支えるために「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたとおりにできる」など、上質で均質な労働者の育成が社会の要請として学校教育に求められてきました。このような中で「正解（知識）の暗記」の比重が大きくなり、『自ら課題を見付け、それを解決する力』を育成するため、他者と協働し、自ら考え抜く学びが十分にされていないのではないかと（令型学校教育）」と中央教育審議会の答申でも出されています。

間もなくすると夏休みに入ります。1年間で、一番子供たちと向き合う期間であり、もしかすると、一番イライラする時機かもしれません。そんなとき、ワンフレーズでも思い出して子どもに接してくれると嬉しいです。

次は、ドロシー・ロー・ノルトの「子どもが育つ魔法の言葉」です。

子は親の鏡

けなされて育つと、子供は人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子供は、乱暴になる
不安な気持ちで育つと、子供も不安になる

「かわいそうな子だ」と言っで育つと、子供は惨めな気持ちになる

子供を馬鹿にすると、引つ込みあんな子になる

親が他人をうらやんでばかりいると、子供も人をうらやむようになる

叱りつけてばかりいると、子供は「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子供は、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

褒めてあげれば、子供は明るい子に育つ

愛してあげれば、子供は、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子供は、自分が好きになる

見つめてあげれば、子供は、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子供は、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子供は、正直であることの大切さを知る

子供に公平であれば、子供は、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子供は、優しい子に育つ

守ってあげれば、子供は、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子供は、この世の中はいいところだと思えるようになる

